

令和6年度感染症対応力向上事業 訪問支援

施設

当施設は、利用者数150名の入所施設と、定員48名の通所リハビリテーションが併設され、医療と介護のサービスを通じて、利用者の自立へ向けたリハビリに重点をおき、家庭に復帰することを目指しています。

感染症対応力向上事業 参加の動機

2019年に新型コロナウイルスが発症し、当施設でもクラスターが数回発生しました。通所リハビリテーションの利用者様と入所利用者様がトイレ、浴室、機能訓練室を共有しており、入所スペースには個室数が少なく、又、重度の認知症利用者様も多数入所されています。クラスター発生時は、隔離、ゾーニング対応が課題となっていました。そこで、現在行っている感染対策の評価、基本的な感染対策のご指導を頂きたい、本事業に参加を希望しました。

実施日	1回目	令和6年9月19日(木)	10:00～11:00
	2回目	令和6年10月23日(水)	10:00～11:00

ラウンドから見えた課題

ラウンドを通して、物品の管理方法に問題があることが明らかになりました。具体的には、浴室内のシャンプーボトルに継ぎ足しをしていること、使用前の清拭タオルを濡らしたまま保管していること、汚物を破棄するバケツを手で開閉していること等が挙げられました。他にも、手指消毒の徹底が非常に重要であり、対策方法の全てに共通するため、職員全体に啓発していくことも課題であると感じました。

取組内容

- ①浴室内のボトル管理（継ぎ足し方法）
- ②清拭タオルの保管方法の見直し
- ③汚物（使用済オムツと清拭タオル）の処理方法の見直し

取組成果

- ①浴室内に消毒の希釈量が記入されているバケツを設置し、空になったボトルを洗浄後、必要量で浸漬する。洗浄、乾燥後、シャンプーを注ぐ。
- ②清拭タオルを乾いたまままで四つ折りにして、10枚1束とし、ゴムを十字にかけ、必要時、洗濯機で水をため、脱水をかける。
- ③壊れていないペダル式のごみ箱に変更。オムツや汚染したものは小袋に入れ、口を閉じて捨てる。ゾーニングの入れ替え。

施設：参加しての感想

研修会では、基本的な感染対策について、資料を用いて丁寧な講義で、とても勉強になりました。実際に施設内をラウンドしながら、適宜、根拠を含めた指導、質疑応答もして頂き、とても分かりやすかったです。ラウンド後は、課題の指摘と共に、現状で出来ている面も評価して下さり、日々対応に追われている職員のモチベーションアップにも繋がり感謝しています。クラスター発生時のみではなく、平常時の基本的な感染対策を徹底することで、多数の感染症の発生防止に繋がることを学ぶことができました。今後も感染委員会と連携して、感染対策に取り組みたいです。

ICN：講師としての感想

施設側から事前に頂いた質問内容と標準予防策チェックリストを踏まえて、最新の知見を基に講義資料を作成しました。施設側が「今、知りたい」内容を中心に講義することで、感染対策への興味・関心に繋がり、理解しやすかったのではないかと考えます。

また、講義だけではなく、実際に病室やスタッフステーション、お風呂場や汚物処理室などラウンドを行いました。感染症が発生した場合だけではなく、日頃からの基本的な感染対策において、現状できている所と改善が必要な所について、一つひとつ説明を行うことができ、今後の感染対策向上への一助になれたのではないかと考えます。

施設名：介護老人保健施設葵の園・東広島
施設名：賀茂精神医療センター

看護師長： 山口 淳子
ICN氏名： 多田 兼次

<取組み前>

写真

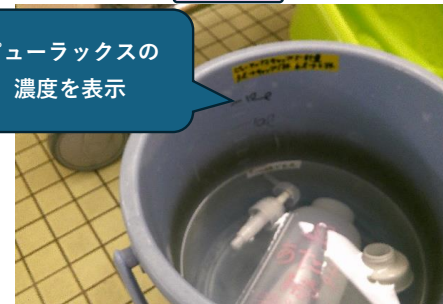
①



ピューラックスの濃度を表示

<取組み後>

写真



②



1回分紐でくり、使用分を水で濡らして脱水する。



③

